

第6回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会 議事概要

日時：平成26年3月20日（水）14:00～16:00

場所：八代市勤労福祉会館

■議事次第

1. 開会
2. 事務局からの説明
 - ・第5回委員会の議事要旨について
3. 議事
 - ・遙拝堰下流の瀬の再生に向けた河床デザイン検討について
 - ・萩原堤防のデザイン検討について
 - ・今後のスケジュールについて
4. 閉会

■議事要旨

①遙拝堰下流の瀬の再生に向けた河床デザイン検討について

- 委) 左岸側の護岸の形状（直線的）について、治水性能との検証を行い工夫すること。
- 委) 基本的に加藤清正の形、昭和8年の図面の形を踏襲し、「八」の部分を再生することとする。
- 委) 昭和8年のときに右岸側に砂が堆砂した原因を昭和8年の図面で確認すること。
- 委) 八の字の下流のほうも、再現できるのであれば出来る限り再現すること。

●現在の産卵場の状況を漁協（オブザーバー）から説明

今の産卵場の状況は、土砂吐ゲートと魚道とのピアの関係で、土砂がこの場所に堆砂するようである。右岸側は土砂吐からの水の流れと、魚道からの水の流れ間のピアの関係でこの場所に土砂が貯まる状況となっている。真ん中の洪水吐の転倒ゲートの方は消波ブロックの下流部が全部洗掘しており土砂が貯まるというのはこの場所にはありません。左岸側の土砂吐ゲートと魚道の間については、左岸側の護岸の角度の関係で洗掘するようである。昔は護岸が短かった関係で、左岸側の下流域にも産卵場がありました。左岸の護岸を延ばして川の流れを中心に向けた関係上、右岸側下流の箇所は全部飛んでしまいました。

●八の字の位置関係についての見解を漁協（オブザーバー）から説明

現況として上流も下流も当時なかった構造物ができています。昔の八の字堰があった時代は左岸の方に土砂が堆砂していた。また、今でも残っていますが、上流には千岩松（せんがんまつ）という岩盤あり、構造的には水制のように出っ張っており、上流

の今泉地区から蛇行して流れてきた水を、右岸の方に水を寄せて、左岸の方に土砂が堆砂していたようである。そういうことから川の上流の構造物の関係上、右岸の方の水の流れが結構残っているような感じを私としては受けております。

委) 八の字の河床のデザインで流速の分布を見ると、右側の八の字に当たるまでの間に、ほんのちょっと流速が遅くなる部分がある。そのような場所が存在することにより、生物の多様さが出ると考えられる。

委) 八の字の位置が上流に上がると、流速が速いまま八の字に水が当たってくることになるので、八の字の位置を出来るだけ下流に下げたほうが良いと考える。

委) 八の字の位置について、現在の位置を原案として、下流に下げることによって何か不都合があるかどうかを模型実験で確認すること。

委) 石張りの構造については、鵜ノ瀬堰、白石堰の絵図を見ても、大きな石の間に何か詰め物をしてある。やっぱり大きな石を全体的に置く形がベースと考える。やはり加藤清正由来というところに少しこだわったほうが良い。

委) 八の字の天端の高さはなるべく高くしたほうが良い。

委) 遙拝堰下流の護床ブロックが大分出ているので、なるべく八の字の天端を高くすることでバックウォーターが効いて水面が連続する。また、生き物の遡上とか景観上もかなりよくなる。治水上支障がない範囲で少し高くする方向で検討すること。

委) 左岸の真っ直ぐな護岸及び水制については、隠し護岸等で土手にするなど検討をすること。

委) 「八」以外はほとんど見えなくなるような工夫をするとよい。

委) 左岸側の護岸の法線自体が流向を右岸に寄せ荻原堤に直接ぶつけるような法線形になっている。もう少し左岸側に開いても良いのではないか。左岸側は窮屈になっている左岸側を少し開いてやって、砂がたまりやすいかについて検討すること。

委) 真ん中の流速が速いので、八の字の天端高と舟通し部の高さの差を縮めるようなこと検討すること。

委) 入り口のところだけ高くして流速を遅くするとか、何かその辺の一工夫は必要ではないか。

委) 八の字というのが一般の方も含めて、わかりやすく表現できるかが大切である。環境性能の向上、治水の性能の担保も大切だと思いますが、できれば八の字以外は何も見えないというふうになってほしい。

②荻原堤防のデザイン検討について

委) 景観とか、観光とか、そういう方面からいろいろ検討されているが、私は荻原堤防というのは、一番大事なのは防災だろうと思っている。ここが崩れてしまったら八代は全滅。過去にそういう大水害があっているわけですから、そちらもやっぱり考えていかなければならない。恐らく地元の人たちの一番の関心もそれじゃないかと思いま

す。景観と防災をあわせて検討して頂きたい。

委) 萩原堤の話を伺っているところですのでけれども、先ほどの八の字堰とこの萩原堤の考え方というのは、やはり連続したものであるなという印象を受けている。

委) 堤防は散策路として非常に一般住民の方も活用させていただいている。しかし残念なことに、途切れ途切れになっているところもあるが、この計画ではちゃんとつなぎ込んだ計画となっており、市民が共通して持てるビジョンというものになっている。

委) 屋形船というような形でご提案をしているが、そういう何か生産性の上がる形が一つできないのかなと考えています。

委) 周辺から人が集まれるような、施設があればと考えます。今回の資料の中には道の駅というようなコンセプトも少し入っているので、そのような構想も計画に落とし込んで頂きたい。

委) 私は高校生から小学校 1 年生まで 4 人の子供がいるので、ちょうどこの辺を利用する世代だと思って現地を見に連れて行きました。やっぱり足を運ぶには、駐車場の問題とか安全面等々があり、これから手を入れていく上ではかなり大きな予算等々が発生するのではないかとイメージを持ちました。

委) 市民目線で言うと、ちょっと川を見るだけの感じがあるので、もう少し遊べるようなスペース、川と触れるというか、簡単に言えば、水遊び場みたいなどころがあったらいいなど、子供達が言っていた。

委) オレンジ鉄道にしろ、肥薩線にしろ、無人の駅でもいいから、萩原堤防のところにとまるようなルートが確保できないだろうか。

委) 遙拝堰と球磨川堰を渡れるようにできないだろうか。本当に球磨川らしい歴史観が感じられるようなちょっとした工夫があるとよい。

委) 一級河川が八代市の中心を流れているというのは、全国的にも珍しい地区だと思う。その辺の自然を生かした遊覧事業と言うのは、形としては、どんな形でもできるのではないかと考えている。小さい舟でも大きな舟でも良いと思うのですが、これは皆さんで共有しながら、水面の利用がなされればおもしろいと思います。

委) なかなか今は子供たちが川で遊んでいるというのは見かけないようになった。このエリアの中で、どこかそういう子供たちが遊べ、川に親しめるというところをぜひご検討いただきたい。時間をかけて整備するわけですので、次の世代の子供たちがみんな夢を持てるような、あるいは球磨川をもうちょっと見直せるような、そういった整備をやっていただきたい。

委) 一番河口からずつつながって自転車で 1 時間ぐらいで往復できるような場所ができれば健康にも非常にいいなと思います。

委) 親水という言葉の裏には、生き物の生息場所を意外と壊してたりする問題もある。その辺りのバランスをいかにうまくとっていくかということが結構重要になってくる。やっぱり全ての意見を反映する中で、生き物にどう向き合っていくかということのを常に考えなければならない。

委) 球磨川堰の左岸側に多自然魚道と入っているので、是非これは進めて頂きたい。遠賀川河口堰が結構良い魚道を造っており、定期的に調査を行っていますが、ウナギのクロコが大量に入ってきています。このような環境を造るだけできめんに生き物が反応します。

委) 環境教育とか親水性もありますが、やはり子供たちが遊べる場所。スマホとかでピコピコしているよりも、川に出たほうがおもしろいというような川にして欲しい。

委) 基本的な考え方は、上流の八の字堰と同じぐらいのレベルに基本方針をきっちりまとめたい。それに沿ってデザインされていくので、ここがとても大切である。

委) 治水上安全なデザインというのは当然入れないといけないし、キーワードはたくさん出てきました。まちづくりと関係したデザイン、それから商いとかが、商業とか、にぎわいとかが、そういうものもやっぱり入れていかないといけないだろうし、水遊びとか、河原とか、中州とか、そういうことも出てきましたし、川を食べるみたいな話も出てきたので、ここの基本的な考え方は、今のいろんな人の意見をもう少し聞いて、それに沿ってデザインができたかを後でチェックできるように再整理をすること。

委) 空間全体のコンセプトと萩原堤防だけのコンセプト 2 つに分けるべきである。全体的にまとめ過ぎると、萩原堤防の設計をやる時にすごくピンぼけという問題が起きる。

委) もう少し明瞭に、八の字堰のほうは最初の 6 項目が非常によくできていたので、それに沿って全部チェックできた。そういう形の基本的な考え方がとても大切なので、ここはもう一回再整理して頂きたい。

委) 町自体が発展するということがとても大切なので、そういう視点を入れていって、かわまちづくりとか、そういう方向に発展することが望ましいので、商工会の方のご意見とかは重視したほうが良い。

委) 基本的な考え方がまだ十分煮詰まっていないので、完全にそれがチェックできる状況になっていない。その辺はやっぱり丁寧にやっていかないといけないので、一遍にこれだけ議論できないので、徐々に、つくられるのであれば時間をかけて、1カ所2カ所ずつゆっくり議論していくというような形のほうがよい。

委) 萩原堤防と八の字堰を造ることで進めていますが、右岸、左岸ともに遠いなあという意識があって、その間に何かないかなというのをすごく感じます。萩原堤防右岸に関しても、八の字堰の間に何か結節点ぐらいでもいいので、川裏の町にすっとおりられる場所があるとか、ここの間に何か工夫が欲しい。

③今後のスケジュールについて

- ・ 次回の委員会は、8月若しくは9月に開催したい。